

人材交流報告書

全国科学館連携協議会

提出日 2018年 12月 27日

所 属	佐賀県立宇宙科学館	氏 名	岸田 竜	印	
交流期間 年 月 日	2018年11月28日から12月02日	交 流 先	岡山県立人と科学の未来館 サイピア		
目 的	各加盟館がもつノウハウやスキルを相互に学び合い、研修者のスキルアップを自館の活動拡大創出の機会に繋げること。				

報 告 事 項

[全体を通して]

切れ目なく、次々と企画を実行していることに驚かされた。近隣の学校、団体、地域住民との連携が見事だった。これらの組織、個人からの持ち込み企画を短期間で実行していた。

様々な業務が、合理的に行われており、無駄な仕事がないように見受けられる。プラネタリウムは残席がチケット販売カウンターのディスプレイに大きく表示されるが、使用しているソフトウェアは一般的な表計算に用いられるエクセルである。販売カウンターには通常は職員が常駐しておらず、販売カウンターに設置してあるカメラに訪問客が写った際に職員がカウンターに出るようになっていた。

現在、常設展示が乏しいが、着々と収集しているようだった。大学等で不要になった研究材料、資料等を寄贈、貸与してもらい、教育用に再利用していた。

施設のほとんどが常時開放されている。プラネタリウムを観覧しない場合はサイピアの施設を無料で使用することができる。幼児用のプレイルーム、隣には比較的大型の公園が併設されており、小さな子供をつれた保護者が気楽に来館できる環境となっている。プレイルームの児童はまだプラネタリウムを観覧する年齢に達していないが、小さい頃から身近にあるため、自分たちの施設、自分たちのプラネタリウムという思い入れと、一緒に成長する施設といった考えを持ってもらえると思われる。

教育に注力されており、プラネタリウムの教育用のシナリオを多数準備されている。シナリオは、解説者によるバラつきが小さくなるように工夫されている。また中学生の職場体験において、プラネタリウムの投影を中学生に任せることに驚いた。中学生でも容易に操作できるようにインターフェイスをデザインしていること、職員の投影機に対する理解、自信によるものと考えられる。生徒たちからの職場体験のお礼状を読ませて頂いたが、生徒たちの感激が感じられた。おそらく人気のある職場体験の施設であり、生徒たちやその家族は今後繰り返しサイピアを訪れると思われる。大学生の博物館実習も積極的に受け入れ、プラネタリウムを用いた大学の講義も行われていた。またボランティアやアルバイトの方々が主力となっていることも多く、アルバイトやボランティアの方々の専門性を育てるといったことにも力を入れていた。

サイピアは長期的な視点にたって、来館者たちの成長といったことも念頭に、来館者を増やす、「継続しての来館」を考えているようだった。

今回、研修に参加するにあたって人と科学の未来館サイピアと佐賀県立宇宙科学館の共通の課題を探

したが、やはり入館者に高校生、中学生が少ないように感じた。科学館の展示は小学生にとって少し難解な物も存在し、中高生で理解が進むものも数多い。中高生は、受験勉強、部活動等がいそがしく、科学館に来る余裕はないと思われるが、中高生の来館を支援できるような仕組みが、新たな客層を発掘するうえで重要である。サイピアで行っているように、中学生の職場体験等を利用して、めったに触ることができないプラネタリウムの機械操作を体験してもらうことは、中高生の来館を増やすきっかけになると考えられる。

またプラネタリウムの外部業者から購入するオート投影用の質は高いが、飽きられる傾向がある。しかし高価なため頻繁に交換できるものではない。番組前に解説者によるマニュアルの投影を配置することで補っているが、根本的な解決にはなっていない。

共通ではなく宇宙科学館の常設展の課題であるが、常設の展示物は古くなりやすい。進歩の速い宇宙開発の展示においてそれは顕著である。サイピアでは、常設展展示が少なく、短期の企画展として近隣の大学等から提供された収蔵資料、第一線を退いた研究用機材、県民のもつ貴重なコレクション等を切れ目なく展示しているため、比較的最新の近い展示が常に行われている。展示の安定性といった課題は残るが、一つの解決策ではある。



[それぞれの施設、展示で気づいたこと、各部署との意見交換の感想等]

○サイエンスショー

サイエンスショーは一回 30 分から 45 分ほど行われていた。

身近にある材料を利用していることが印象に残った。空気と水、静電気の実験を多用しており、家庭で手に入りにくいものとしては、ドライアイスのみだった。職員二人とボランティアの方で行っていたが、ボランティアの方も長くサイエンスショーを行っており高度な技術をもっていた。職員の方は自分たちに親しみやすいように愛称を付け、児童たちに呼んでもらっていた。

ICT 教育にも力を入れていた。他県の学校や海外の学校と LAN でつなぎ、サイピアと学校で映像を見ながら双方向ライブで実験を行っていた。リハーサルを見学させて頂いたが、遠隔地の現場で指示を出す教員との意思疎通に苦労されていたが、一般的なパソコンとビデオカメラがあれば可能な取り組みで大いに参考になった。



○プラネタリウム

プラネタリウムは、自身での番組作成、星空解説も自動化され、解説音声も職員やアルバイトの方々に録音しているため、違和感がなく、オートの星空解説も生解説と間違えるほどの高い完成度を持っていた。

以前使用していた劣化が激しいスライドフィルムを、フィルムスキャナでパソコンに取り込み、画像処理ソフトで着色、修復等を行う再利用が行われていた。

リニューアル前の名称が児童科学館ということもあり、児童への対応に注目していた。サイピアでは解説員もチケット販売やサイエンスショー等様々な業務を行うため、児童との距離が近く、児童に親しまれているように感じた。暗がりを不安に思う児童にはぬいぐるみを貸し出し、お客様導入時、暗いドーム内に投影される動画はかわいらしく、緊張感を和らげる工夫がなされていた。



○統括責任者との意見交換

一度廃止が決定した施設を署名運動やパブリックコメントで、継続が決定した経緯を話していただいた。廃止が決定した当時は多くの展示物、プラネタリウム等の老朽化が進み、利用者にとっては興味が薄れていたはずだが、議会の決定を覆すほど、県民に親しまれ応援されていることをうらやましく感じた。

○生涯学習センターの振興課

生涯学習センターの振興課のバックアップは大きいと感じた。宇宙科学館のように経営管理部がないため、全てのサイピア職員がその業務を行っているが、振興課はアドバイスや書類等、上級機関との折衝の大きな助けになっているように感じた。振興課が行っているコズミックカレッジの望遠鏡をつくる教室に参加させて頂いた。工作自体は比較的簡単であるが、講師の方が、この工作を行う意味と原理を子供にも語る姿が印象的だった。多くの大学生、県民がボランティア講師として参加していた。ボランティアの方々は、事前に多くの訓練を受けているようで、教え方、工作がとても上手で驚いた。



○常設展

常設展示用の試料等を集めている段階である。

以前使われていた、プラネタリウム本体、惑星投影機等、が展示されている。プラネタリウム本体のほとんどは保管されているとのこと。著名なモデラーが制作した船の模型なども展示されていた。狭いながらも、図書室もあり自習用の机で生徒たちが勉強をしていた。科学雑誌、書籍も比較的近年のものが置かれていた。

○公園

自然の地形を利用した公園が併設されている。敷地のほとんどが急斜面で形成されている。急斜面を駆け回る児童はとても楽しそうである。児童の転倒等の事故は多いと思われるが、それにもかかわらず公園が継続されているのは、地域住民など利用者の理解、信頼によるものと考えられる。その急斜面を生かした、長大なローラ滑り台も見事である。遊具のメンテナンスは大変と想像するが、比較的良好に保たれていた。利用している児童の数は多く、閉園時間まで、平日にもかかわらず多くの児童がみられた。研修期間中に、公園で焚火を利用した料理の実演が行われていた。人類の進化において、栄養摂取を飛躍的に高め、脳発達の要因となった食糧加工方法「加熱調理」の原始的な形を児童たちに見せていた。最近では電磁調理器、電子レンジといったオール電化の家が増えているなかでは貴重な経験だと考えられる。実演の意味が分かる人には興味深く、あまり興味がない方にも楽しい講演となっていた。

また地中に埋蔵されている岩石を探すスタンプラリーもあり、公園全体を回ってもらえるよう工夫がなされていた。



○交通

中国地方有数のターミナル駅である岡山駅から徒歩や自転車で来館可能な位置にあるが、道案内や地図が少なく感じた。閑静な住宅街のなかにあるためか、遠方から見た場合の目印もなく、恵まれた立地条件を生かしていないと思われる。

敷地内に教育施設が存在し、連携も容易と考えられる。近隣に学校も多く、理想的な位置にあった。